



2018年5月23日

新日鉄住金エンジニアリング株式会社

建築・鋼構造事業部 鋼構造営業部 橋梁商品営業室

「パネルブリッジ®」の架設工法に「架設桁架設工法」が“初採用” ～ 千年橋（釜石市道港町2号線）～

新日鉄住金エンジニアリング株式会社（代表取締役社長：藤原 真一、本社：東京都品川区、以下「当社」）が開発し販売中のプレファブ橋梁「[パネルブリッジ®](#)」の架設工法に「架設桁架設工法」が、千年橋※（釜石市道港町2号線、以下「本橋」）において、初めて採用されましたので、お知らせいたします。

※千年橋（せんねんばし）：東日本大震災により被災した町が復興し、釜石の明るい未来に向かって、千年先も賑わい、住民が安全安心で暮らせるようにという思いを込めて、名称となった橋。

「パネルブリッジ®」は、工場にて主桁および合成床版を一体化することにより、現場施工の簡略化を追求したプレファブ橋梁です。また、主桁と床版を合成することで低構造高を実現し、架設時に吊足場や床版型枠の設置・撤去が不要となることから、構造高制限のある橋や桁下余裕高のない橋に適しております。

桁下に架設ヤードが確保できる場合、トラッククレーンにベント（支保工）を併用した架設工法が一般的ですが、今回採用された「架設桁架設工法」は、桁下に架設ヤードが確保できない場合や、河川などで出水の恐れがある場合に適用した工法で、架設桁（エレクションガーダー）を設置し、吊上装置により主桁を吊上げ、所定の位置まで移動させた後、主桁を吊り下げ架設する工法です。

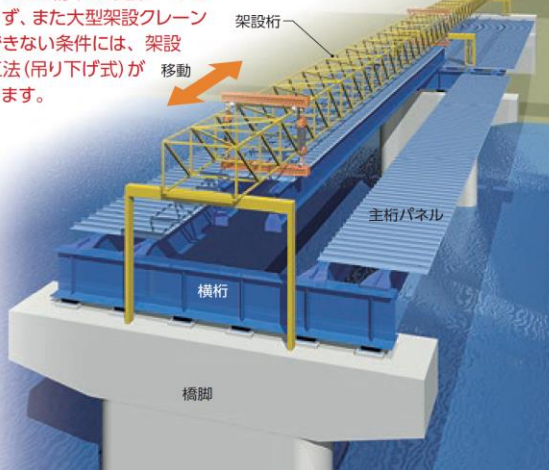
「パネルブリッジ®」採用の経緯は、甲子川を渡河する本橋の計画時に、国道283号の地盤高とすり付けるため、低い桁高構造が必須であった事、河川内施工が不可であった事により、今回「架設桁架設工法」による「パネルブリッジ®」が評価され、採用にいたしました。

当社は、今後も社会的ニーズを的確に捉え、鋼構造エンジニアリング力と鉄の知見を活かした商品・技術の提供を通じ、安全・安心な社会の実現に貢献してまいります。

【工事概要】

- ◆橋梁名 : 千年橋
- ◆発注者 : 釜石市
- ◆元請会社 : 株式会社小澤組（岩手県釜石市）
- ◆竣工年月 : 2017年12月
- ◆製品概要 : パネルブリッジ®
 - ・橋長 : 91m
 - ・全幅員 : 15.800m（標準部）～28.831m（拡幅部）
 - ・鋼重 : 450.2ト

出水期等により桁下の架設ヤードが確保できず、また大型架設クレーンが使用できない条件には、架設桁架設工法(吊り下げ式)が適用できます。



【架設桁架設工法のイメージ図】



【施工状況写真】

【お問い合わせ先】

建築・鋼構造事業部 鋼構造営業部 橋梁商品営業室

03-6665-3370

【“パネルブリッジ®”に関するお問い合わせ先】

URL : <https://www.nsec-steelstructures.jp/contact/form/index.php>

以上